

B棟のみなさん！

男山の願いを 日本共産党 女性代表へ

男山団地 在住30年
住みよいまちづくり実現へ。パワー全開



バトン
わたす

かめだ優子

前市会議員
が訴え

「暮らしが大変」という声がちにあふれるいま、幼い時に母親を亡くし苦労した経験から、子育て中の人、困っている人に寄り添って、悩みの解決に力を尽くしています。

男山団地のエレベーター設置など、住み続けられるまちづくり、誰もが安心できる医療と介護、子育て支援充実など、男山のみなさんの願い実現に頑張ります。

2003年の初当選から5期20年、みなさんのお力添えで市議員をつとめることができました。心から感謝申しあげます。これからは、バトンタッチする日本共産党の女性代表と一緒に頑張ります。

日本共産党の女性代表は、男山団地に住んで30年。2人の子を育て、八幡二幼や八幡二小のPTA役員を務めるなど子育て・教育環境の整備にとりくんでこられました。一緒に子ども医療費無料化の拡充、エレベーター設置の運動もとりくんできました。とてもパワフルで頼もしい人です。

最近も、DVに悩む女性から相談をうけ、弁護士など関係機関を東奔西走。住居確保や生活再建に尽力されました。市議員にふさわしい方です。期待しています

←ウラ面に【解説】住まいを脅かす「維新」の「UR民営化」論

ご存知
ですか

UR民営化 維新の主張

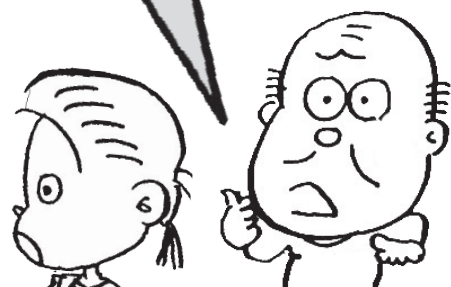
参議院の予算委員会で3月末、維新の会の東徹議員（大阪選挙区）が、UR都市再生機構を民営化して、その資産1・5兆円を防衛費増額に使えと主張しました。

維新の会は、2017年UR完全民営化法案を提出しており、維新の会としてUR民営化は一貫した主張のようです。

この立場は、男山団地などUR住宅に住む人たちの住まいを脅かし、UR団地に住み続けることができなくなってしまうです。

URを民営化して
資産1.5兆円を
防衛費増額に使って？

住まいが
危ない！



住み続けられる 男山のまちづくりを

UR都市再生機構が2008年に男山団地の縮小・再編計画を出した時、八幡市議会では、日本共産党をはじめ全会一致で意見書を採択。URに、住民合意を得ること、住民の居住の安定の確保、市のまちづくり施策との整合を図ることを要請しました。

これがきっかけとなって、「住み続けられる男山のまちづくり」をテーマに、八幡市と京都府、関西大学、URが協議する場が設けられました。そして、地域医療福祉拠点計画に基づいて、男山団地にエレベーター17基が設置され、特別養護老人ホーム、ケアハウス「あんしんサポートハウス」の複合施設ができました。

エレベーター設置では、政府の補助金を活用し、介護施設の「あんしんサポー

トハウス」の建設時には、URの協力で土地を確保でき、京都府の支援もうけました。

維新の会が主張するようにURを民営化すれば、こうした国と自治体の支援やURの協力を得ることが難しくなり、「住み続けられる男山のまちづくり」の根拠が崩れてしまいます。家賃の高騰などの懸念もあります。



日本共産党は、エレベーター設置や医療・介護の施設の充実を進め、安心して住み続けられるまちづくりを進めます。

日本共産党